

2023 | 春 |

あんず

K y o r i n M a g a z i n e A n z u

vol. 9



杏林大学

02 …… キャンパスカレンダー	09 …… 人事情報
04 …… 新年度のご挨拶	10 …… 学生情報
06 …… 令和5年度 事業計画	11 …… 大学認証評価、歴史展示パネルを設置、 ご寄付の報告
08 …… 令和5年度 学園予算	

10月



4年ぶりに対面で杏園祭を開催。実行委員会や学生たちがステージイベントなどで盛り上げ、2,400人以上が来場しました。



11月



学生たちが日本各地の自治体と連携し、特産物を紹介するクラフトマーケットを開催。井の頭キャンパスは5,000人以上の来場者で賑わいました。



11月 医学部で白衣式を挙行政。臨床実習に臨む4年生130人が良医となることを誓い、白衣を授与されました。



12月 国際交流の集いを3年ぶりに開催。留学生と在学学生、教職員64人が井の頭キャンパスで交流しました。



2-3月 硬式野球部が大分でキャンプ。部員・スタッフ74人が東京新大野球連盟1部復帰をめざして強化練習に打ち込みました。



3月 三鷹国際交流協会等主催の「ウクライナデー」が松田進勇記念アリーナで開催。学生が通訳などで協力しました。



3月 保健学部リハビリテーション学科作業療法学専攻が3年ぶりに南カリフォルニア大学院生の研修を受け入れ、院生4人が在学学生と交流しました。



3月 総合政策学部、外国語学部で今年最初のオープンキャンパスを開催。高校生約220人が参加しました。

キャンパスカレンダー
2022年10月~2023年4月

3月 令和4年度卒業式を挙行政



学部生・大学院生合わせて1,322人が卒業。式は、午前と午後に分かれて松田進勇記念アリーナで開かれ、オンラインでも同時配信されました。



渡邊 卓 学長



4月 令和5年度入学式を挙行政

学部生・大学院生合わせて1,530人が入学。3月の卒業式に続き、コロナ禍以来4年ぶりとなる杏林大学吹奏楽団による演奏が披露されました。



松田 剛明 学園長・理事長



2023年度 ご挨拶



理事長
松田 剛明

新年度が始まりましたが、この3年余りの間、世界中に混乱を引き起こした新型コロナウイルス感染症もようやく終息の兆しが見えつつあります。昨年度末までに、本学医学部附属病院では3,948人の受診患者と、その中の1,214人の入院患者を受け入れてきました。改めてこの感染症の診療に関わってくれている医療関係者の皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の受け入れについては、私が所属している救急総合診療科が主体となっていますが、これまで救急外来で勤務している医療スタッフがコロナ陽性患者から感染した例はありません。これは、スタッフ全員がこの感染症の正確な知識を得た上で、徹底した感染防御対策を行った結果だと考えております。この事からも、本学では教職員や学生達にこの感染症の正確な情報、現状、対策を説明した上で、遠隔授業を併用しつつも、出来るだけ通常通りの活動を継続してきました。新年度からは海外実習や留学も積極的に再開し、可能な限りコロナ以前の学生活動が出来る様にしたいと考えています。

現在附属病院においては、高度救命救急センター内にハイブリットERを整備中であり、これが完成すると、多発外傷や急性心筋梗塞、あるいは脳卒中などの患者のCT撮影からカテーテルを用いた動脈塞栓術(TAE)や血管内治療を連続して行う事が出来る様になります。また、臨床検査部門においては、臨床検査システムの整備を行う予定であり、血液検査などがより速やかに施行出来る様になります。

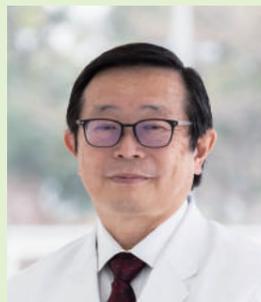
大学部門については、学長と各学部長のリーダーシップの下、リサーチセンターの建設計画、入試様式の改革、学部・学科再編、などのプロジェクトを進めています。新型コロナウイルス感染症の影響や光熱水費の高騰により、学園の経営状況は厳しいものとなっていますが、学生教育の充実と医療体制の整備を予定通り進めることで、本学の使命を果たすことが出来るよう努めて参ります。私の目標は本学を国際的な総合大学に発展させることであり、社会に必要とされ、人の役に立つ人材育成に力を注ぎたいと考えております。同窓生をはじめとする学園に關係のある皆様には、今後もご支援を頂きますよう、お願い申し上げます。新年度にあたり、改めましてご挨拶申し上げます。



学長
渡邊 卓

ようやく新型コロナウイルス感染症の勢いも下火となり、社会はポストコロナを見据えて感染症との共存の方策を探り始めました。感染症の終息とともに、社会生活の速やかな正常化を心から願う次第です。

さて、我が国では現在、少子化の進行による大学進学者数の減少、入学者選抜法の変革など、大学を取り巻く環境が大きく変わりつつあります。そのような状況のもとで、将来にわたって受験生に選ばれる大学として独自の魅力を発揮できる体制の強化が本学にも求められています。建学の精神のもと、時代の流れに左右されることなく普遍的な価値を追求する姿勢を堅持することはもちろんですが、同時に、時代の要請にも謙虚に耳を傾けつつ、教学体制の刷新に努めて参ります。具体的には各学部ならびに研究科の教育内容、教育方法を改めて見直すとともに、学生一人ひとりに対する学修面、生活面での支援についても、更なる充実を図って参りたいと考えております。同時に、本学のアイデンティティをより明確にし、それを広く社会に理解していただくための活動にも力を入れて参ります。皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。



病院長
近藤 晴彦

桜の開花が遅めの年には杏の花とともに新年度を迎えることもありますが、今年は例年になく桜の開花も早く、新緑の中で迎える新年度となりました。ほぼ3年間続いた新型コロナウイルス感染症も第5類扱いとなります。この間、対面でのコミュニケーションが制限されるという大きなデメリットはありましたが、デジタル化(DX)が進み、院内外の会議や情報伝達の仕方などにも活用されてきております。今後は感染症への対策継続を怠らずに、DXを進めながら引き続き「あたたかい心のかよう良質な医療の提供」を進めてまいりたいと考えております。

病院としては、今年度末までの大きな課題が2つあります。ひとつは、医師の働き方改革で、長時間労働を改善するための改善策を講じて勤務環境評価センターから各水準の指定を受けることが求められています。並行して様々な業務効率化、タスクシフトを進めることとなります。そしてもうひとつは新バージョンとなった病院機能評価の受審です。これらは、ともに大変な作業となりますが、勤務環境をより改善し、より良い医療を提供するためのプロセスでもあり、職員一丸となって取り組んでまいります。

学部長 新年度にあたって

医学部



医学部長
大学院医学研究科長
平形 明人

杏林医学にふさわしい人材育成を目指して

杏林大学医学部の伝統は、「杏林」という校名が象徴するように、社会に貢献する良い医師の人材育成を第一に掲げていることです。昨年の新講義棟の竣工で、自習室やラーニングコモンズなど学生の自主自学を推進する環境が改善しています。学生時代に医師として生涯教育に繋がる習慣、態度、価値観を身につけられるような教育カリキュラムの整備にも努めています。そのために、低学年からの早期体験学習、学外施設での臨床見学や実習、基礎・臨床各部門での研究や学会などに参加できる自由研究プログラム、レスタール大学と連携した医学英語教育や海外クリニカルクラークシップなども提供しています。

コロナ禍での行動変容で進んだオンライン配信ツールやシミュレーション教育などのICT環境は、ポストコロナ時代においても積極的に活用したいと考えていますが、温かい医師の育成にはface-to-faceでの教育が欠かせません。本医学部は、担任制度、学習支援室、相談室などの充実を介して、教員が学生と密接に交流しながら、個々人でよりよい判断のできる人材養成に努めています。

保健学部



保健学部長
大学院保健学研究科長
岡島 康友

ポスト・コロナの保健学部教育

新型コロナウイルス感染症がインフルエンザと同様な扱いになることが決まり、教育の現場はようやく普通の状態に戻りつつあります。コロナ禍では勉学はもちろん、クラブ活動、学園祭など多くの活動が制約され、学生にとっては思い描く大学生活が送れなかったことと思います。この間に失ったものは大きいと思いますが、学生の多くが卒業後に保健医療機関に入職することを考えると、現場の実習を通して身をもって感染症対応の厳しさを知ったことは貴重な体験だったとも言えます。

さて、保健学部はこのコロナ禍においても新たな発展を遂げました。今年度から従来の理学療法学科と作業療法学科は、新しいリハビリテーション学科の元、専攻として改組され、さらに高齢社会を背景に急性期医療現場で需要の高まっている言語聴覚療法専攻が新設されました。保健医療の世界は時代とともに変化しますが、本学の教育体制も柔軟に変わる必要があります。卒業生、在学生、そして保護者の皆様には今後とも保健学部の教育へのご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

総合政策学部



総合政策学部長
北島 勉

時代の変化を捉え選ばれ続ける学部へ

総合政策学部は今年度、新たに255人の学生を迎えました。新入生には、様々な社会課題に関心を持ち、物事の見方や考え方を修得することを期待します。私達も学生一人ひとりのニーズに応じた指導や支援をしていきたいと思っています。

今後、日本の18歳人口が減少していくことは確実です。総合政策学部では、このような厳しい時代において、高校生から選ばれ続ける学部として進化するために、学部教育のあり方に関する検討を学部の教員全員で進めています。科学技術の進歩が著しく、5年後、10年後の私達の生活や経済活動は大きく変化する可能性があり、社会科学系の学部を卒業する学生に対する社会のニーズも変化していくことが予想されます。私としては、そのような変化に対応しつつ、時代の変化を超えて大切にすべきことも学べる学部にしていきたいと考えています。引き続き、総合政策学部の教育活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

外国語学部



外国語学部長
国際協力研究科長
坂本 ロビン

周囲のために最善を尽くす人材を育成

外国語学部の目標は、ことばを通して主体的に人とつながり、人にやさしく、人を大切にしながら、協働して社会に貢献できる人材を育成することです。

AIの活用が広がる現代においても、人とつながるということにおいて、AIに負けることはないと思っています。日本語や英語、中国語、どの言語においても私たちは相手に合わせてことばを選びコミュニケーションをします。つまり相手との関係があってはじめて深いコミュニケーションが成立します。AIでも表面的なコミュニケーションは可能ですが、それはほんの一部です。具体例をあげると、私の大好きなことばは「be a person of integrity」です。AIによると、誠実な人という意味ですが、それは本来の意味の半分に過ぎません。最も重要な部分は、正しいことを毎日行う人ということです。結果に関係なく、毎日最善を尽くすように努めることを意味しています。

外国語学部では、学生一人ひとりが「a person of integrity」となり、毎日最善を尽くして周りの人のために一生懸命に努力できる人材の育成に努めていきます。

令和5年度 事業計画（重点事業）

学園事務局

重点事業 (1) 教育の質向上に向けた取り組み (2) 研究体制の強化 (3) 優秀な学生確保 (4) キャリア支援の向上 (5) 情報基盤の整備 (6) 地域交流活動 (7) 医療体制 (8) 学園運営体制の整備 (9) 財務体質の強化

重点事業・項目	具体的施策
1 教育の質向上に向けた取り組み	
<医学部> ・臨床実習の充実	・国際基準に準拠した新カリキュラムの改正により、臨床実習期間はおよそ2年間に延長されている。今後、学外施設を含め統一した臨床実習の充実をはかるべく、学内及び学外施設を含めた「診療参加型臨床実習」の実態調査を行い、その分析を行う。
・医学教育分野別評価受審の過程で明らかとなった、改善必要事項への対応(継続)	・医学教育分野別評価受審(平成30年10月)の結果、令和2年3月26日付で「認定」(認定期間:令和2年4月1日～令和9年3月31日)の評価を得ている。受審の過程で明らかとなった改善必要事項について、教務委員会及び医学教育センターを中心に取り組み、次回の医学教育分野別評価の受審も視野に入れ医学教育の充実を図る。
<保健学部> ・国家試験指定規則の改定に伴うカリキュラム再編	・救急救命士、言語聴覚士の指定規則改定が見込まれており、改定内容公示後にはこれに対応した科目の再編を行うと同時に、新カリキュラム履修者にも従来通りの高い国家試験合格者を維持する。
・高齢者の健康寿命延伸に資する人材育成	・心身の健康、運動やスポーツ科学に関連する領域の教育体制を健康福祉学科の一部に構え、同学科の入学定員を増やすとともに、八王子キャンパスの整備を行った。令和5年度は健康福祉学科の学生数増加に伴う教育体制の充実を図るとともに、八王子キャンパスの学生が志すスポーツ活動との両立を支援する。
<総合政策学部> ・3つのプログラムの充実	・Global Career Program (GCP) については、より多くの学生が留学できるように指導する。また、交換留学先の拡大を模索する。データ・デザインプログラム (DDP) については、ITスキルの修得に向けた演習科目における教育内容を充実させる。コミュニティ・ベースド・ラーニング (CBL) については、CBL概論の内容の拡充と専門科目とCBLとの連携のあり方を検討する。また、地域留学先の確保とともに、近隣地域での活動機会を整備する。
・カリキュラム改革に向けた準備	・現行カリキュラムの成果や課題を踏まえて、よりわかりやすいカリキュラム改革に向けた協議を行い、具体化する。特に、専門科目においてPBL (Problem Based Learning) の導入やその割合を上げたり、資格取得サポート体制を構築する。
<外国語学部> ・成果の測定とカリキュラム・マネジメントの確立	・策定されたアセスメント・プラン及びポリシーに基づき、旧・新カリキュラムの学修課程、特に新カリキュラムにおける3年次専門教育の質を検証し、継続的な質保証に努める。
・学生一人一人に学修面できめ細かい指導を行い、満足度向上	・IRコンソーシアム「学生共通調査」、満足度アンケート、授業評価アンケート等、学生アンケートの評価結果を分析するとともに、令和5年度より学生ヒアリングを実施し、生活面での指導・支援に関する満足度向上を目指す。
<医学研究科> ・論文審査体制の見直し	・令和2年より導入された新しい審査基準による審査状況について審査委員からFD等で意見を徴し、基準の検証及び、中間報告会の実施方法等について検討を行い、引き続き論文指導体制及び審査体制の見直しを図る。
<保健学研究科> ・データサイエンス分野の研究促進	・データサイエンス教育研究センターが開設されたのを契機に、大学院の特徴の1つとすることを掲げる。従来、同分野は医用画像解析で多く応用され、診療放射線技術学のMRI画像や臨床検査技術学の病理・細胞診に専ら使われてきたが、画像領域に限らず応用可能な他の保健医療領域でも応用研究を促す。
<国際協力研究科> ・博士前期課程への進学者増加のための取り組み	・総合政策・外国語学部在籍している学生にたいして、大学院進学についての理解を深め、意識を高めるための取り組みを行う。海外からの協定校から、多くの留学生を募集する。
<データサイエンス教育研究センター> ・MDASH 応用基礎レベルへの申請	・認定条件に則したカリキュラムの設計、教材開発、シラバス改定を行い、まずは総合政策学部を対象に応用基礎レベルへの申請を行う。
<高大接続推進室> ・ライティングセンターの利用促進	・対面指導の教育機会を増やすべく、専門の教員のほか、学生ピアサポートを増員して人員体制を整え、利用者サービスを向上する。
<国際交流センター> ・グローバル人材の育成	・国際理解セミナーを実施する。語学サロンとライティングセンターの連携運営により語学学習の効果を高める。
<図書館> ・学習・教育支援	・学生への専属図書館員(サポート・ライブラリアン) サービスを充実させる。
<学生支援センター> ・学生支援センター業務の整備と効率的な運用	・図書館、教務課、キャリアサポートセンターなど、関係各部署と密接に連携し、ピアサポート事業を推進していく。
<保健センター> ・心身の健康支援	・健康診断、予防接種、感染症予防、感染症抗体検査、メンタルヘルス対策、外傷・疾病の応急措置及び保健に関する知識の普及・啓発等を行っていく。
2 研究体制の強化	
<医学研究科> ・学位取得を目指した教育・研究支援体制整備のための取り組み	・若手医師が適切な研究テーマや教育を受けられるような指導体制の整備にむけて、専門領域を横断した支援体制の構築。
<国際協力研究科> ・FD活動の推進および外部資金獲得件数増加の奨励	・大学院生のために特別に設計されたFDの機会を設ける。 ・大学院生奨学金ワークショップへの参加を奨励する。
<データサイエンス教育研究センター> ・統計分析サポート体制の立ち上げ	・統計分析サポートとして、何を、どこまで、どのように行うかといった要件定義を行う。さらにそのうえで、管理プロセスの定義、窓口の設置、担当者のアサインを行い、統計分析サポートの運用を開始する。
<研究推進センター> ・各種補助金・助成金等の獲得のための支援拡充	・研究資金申請未経験の特に若手研究者を対象に、ファーストステップとなる研究計画の策定、研究計画調書の作成に関する勉強会・チュートリアルを実施する。
・全学的な研究体制の構築・学際的研究の拡充	・幅広い学問領域を網羅する総合大学の特長を活かし、学際的な研究を行う体制を構築する。
<男女共同参画推進室> ・女性・若手研究者に対する支援と裾野拡大の継続	・シニア研究者による女性研究者への助成金申請書作成の助言・支援を積極的に拡充し、将来的に自ら適切な申請書を作成できるようきめ細やかな指導を行う。
<図書館> ・文献取り寄せサービスによる研究支援強化	・必要な文献をILL(図書館相互貸借)で取り寄せて提供し、研究支援を行う。

重点事業・項目	具体的施策
3 優秀な学生確保	
<入学センター> ・有効的な入試方法を提案し、入学試験の円滑な運営を図る	・前年度入試の課題及び改善点を検証し、新たに保健学部指定校の導入、総合政策学部、外国語学部指定校、試験日程、試験方式の見直しを図り、有効的な入試方法を提案する。
4 キャリア支援の向上	
<キャリアサポートセンター> ・「ウィズコロナ」時代の中での就職支援の見直し強化	・「より早く、より強く、よりきめ細かく」をモットーに教員との連携を更に深めながら就職支援を実践し、環境の変化にも柔軟に対応できる「しなやかさ」を発揮しながら学生と真摯に向き合っていく。
5 情報基盤の整備	
<総合情報センター> ・ICT基盤の整備による教育環境の充実、情報セキュリティ対策の高度化および学事システム等の再構築による教育DX化の推進	・サーバー構築およびサーバー専用ネットワークの構築を含め、移行するものと新規構築するものを明確にし、コスト面も考慮した整備を行う。
・管理サーバー・関連機器の導入およびデータセンター移行	・機器類の保守期限が到来するため、段階的な更改を複数年に跨り実施する。
・井の頭キャンパスのネットワーク機器更改	・情報セキュリティ基本規程の下文文書として、実施規程、実施手順、ガイドライン等の計画的整備を継続して行う。
・規程整備、教職員へのセキュリティ意識の浸透	・教職員に「セキュリティとは何か」という意識を浸透させるため、体系的な情報セキュリティ教育を開始する。
6 地域交流活動	
<地域連携センター> ・杏林地域総合研究所の活動の継続と発展	・地域社会を舞台とした研究に対する学内外のニーズは高いことから、これまでよりも視野を広く持って機動的に動くことができる組織として地域総合研究所の活動を推進していく。
・連携自治体を舞台とした産学官連携活動の強化	・地域連携センター・地域総合研究所を核とした地域志向研究の取組内容に合致した地域を舞台とした活動を推進していく。
7 医療体制(付属病院)	
健全な病院経営と特定機能病院としての地域医療への貢献	
1. 健全な病院経営と診療内容の質的向上	・データを活用し適切な加算の取得等による病院経営の改善、手術室の効率的運用による手術件数の増加、病床の効率的運用による病床回転率と稼働率の向上、無痛分娩の促進等による周産期医療の充実、高難度新規医療技術の導入促進の継続、フオリティマネジメント委員会等の主導による医療の質向上
2. 院内感染防止対策の強化と医療安全の推進	・新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の徹底、パンデミックにおける継続可能な医療提供体制の構築、院内外の感染対策教育と指導の推進、医療安全教育の促進と医療安全文化の醸成、院内の倫理的諸問題を取り扱う体制の確立
3. 職員の勤務環境改善と人材育成の推進	・医師の働き方改革に関する取り組みの推進と第3者機関による評価、タスクシフトの推進、診療支援室設置による医師事務作業補助体制の充実と業務拡大、特定行為研修看護師教育課程の推進と専門・認定看護師の活用促進、ITを活用した事務作業等の効率化、遺伝子診療、がんゲノム医療、治験の推進と人材の育成、病院機能評価受審に向けた体制強化、院内Wi-Fi環境の整備およびリモート会議等を活用した院内諸会議の効率化の促進
4. 地域医療機関との連携強化	・地域医療に貢献する分院設置にむけた準備、ICTを利用した近隣医療機関との連携強化、連携施設のデータを活用した初診患者数の増加、地域医療機関との役割分担を目指した逆紹介の推進、東京都ドクターヘリ事業の確立と安定した運用
8 学園運営体制の整備	
<広報部門> ・学園のイメージ向上を狙った多角的な広報の展開	・公式ウェブサイトの充実強化、戦略的・効果的な広告・広報の展開、あんずネットの利便性向上、地域貢献・開かれた大学への取組みの充実強化
<総務部門> ・私立学校法の施行に向けた準備	・今後予定されている私立学校法の改正は、学園理事、評議員の人員構成・任期及び理事会・評議員会の権能、役割の改正が予定されていることから、学園の意思決定機能に関する人員の配置、規程の改正等、改正法令へ混乱なく対応できるよう準備を進める。
<人事部門> ・人材の確保について	・杏林学園が求める職員採用を安定的に進めるために、より戦略的に早期の採用プランの作成や、ピンポイントで学校訪問を行い、アプローチなどを含めて、計画的に実行する。
9 財務体質の強化	
・財政基盤の健全化	・令和3年度に策定された「第2期中期財務計画」(①当年度収支差額の恒常的黑字化、②施設設備計画と連動した資金計画の策定と実行、③当年度収支差額を黒字とした予算編成と執行)の基本方針に基づき、令和5年度においても予算管理に努める。

事業計画の詳細は、大学 HP「経営・財務情報」に掲載しています。

令和5年度 学園予算

■ 資金収支予算の概要

総資金収入は712.60億円、総資金支出は674.24億円の規模である。令和4年度(決算見込)からの繰越金は75.91億円。令和5年度予算の翌年度に繰越す金額は84.85億円となる予算となった。

< 資金収支 >

収入の部 (単位：億円)		
科 目	令和5年度予算	令和4年度予算
学生生徒等納付金収入	118.61	114.43
手数料収入	4.42	4.65
寄付金収入	4.18	5.36
補助金収入	25.17	22.21
資産売却収入	0.00	0.00
付随事業・収益事業収入	6.05	5.67
医療収入	423.43	405.84
受取利息・配当金収入	0.15	0.09
雑収入	2.21	3.60
借入金等収入	20.00	0.00
前受金収入	19.48	18.37
その他の収入	88.84	81.35
小 計	712.60	661.62
資金収入調整勘定	△84.76	△82.49
前年度繰越支払資金	75.91	103.36
収入の部合計	703.75	682.49

支出の部 (単位：億円)		
科 目	令和5年度予算	令和4年度予算
人件費支出	232.99	231.35
教育研究経費支出	34.07	33.82
医療経費支出	221.80	203.69
管理経費支出	30.19	27.40
借入金等利息支出	1.30	1.45
借入金等返済支出	31.22	9.94
施設関係支出	34.54	26.76
設備関係支出	16.91	18.22
資産運用支出	12.20	11.51
その他の支出	57.98	92.89
予備費	1.00	1.00
小 計	674.24	658.07
資金支出調整勘定	△55.33	△57.28
翌年度繰越支払資金	84.85	81.70
支出の部合計	703.75	682.49

※百万円未満を切り捨て、合計額においては差異を生じる場合がある。

■ 事業活動収支予算の概要

事業活動収入計は585.00億円、事業活動支出計は579.69億円である。その結果基本金組入前当年度収支差額は5.30億円の収入超過予算となった。

令和4年度(決算見込)の前年度繰越収支差額は△1,009.24億円、令和5年度(予算)の当年度収支差額は△43.87億円となり、翌年度繰越収支差額は△1,053.12億円の予算となった。

< 事業活動収支 >

教育活動収支 (単位：億円)				
教育活動収支	事業活動	科 目	令和5年度予算	令和4年度予算
		事業収入の部	学生生徒等納付金	118.61
		手数料	4.42	4.65
		寄付金	4.27	4.14
		経常費等補助金	23.80	19.35
		付随事業収入	6.05	5.67
		医療収入	423.43	405.84
		雑収入	2.10	3.49
		ア) 教育活動収入計	582.72	557.60
	事業支出の部	人件費	236.94	235.78
		教育研究経費	52.36	50.95
		医療経費	251.90	232.29
		管理経費	35.49	32.42
		徴収不能額等	0.01	0.01
		イ) 教育活動支出計	576.72	551.47
A) 教育活動収支差額			6.00	6.13
教育活動外収支	事業収入の部	受取利息・配当金	0.15	0.09
		その他の教育活動外収入	0.00	0.00
		ウ) 教育活動外収入計	0.15	0.09
	事業支出の部	借入金等利息	1.30	1.45
		その他の教育活動外支出	0.00	0.00
		エ) 教育活動外支出計	1.30	1.45
B) 教育活動外収支差額			△1.14	△1.36
経常収支差額 (A+B)			4.85	4.77
特別収支	事業収入の部	資産売却差額	0.00	0.00
		その他の特別収入	2.12	4.56
		オ) 特別収入計	2.12	4.56
	事業支出の部	資産処分差額	0.65	1.26
	その他の特別支出	0.01	0.00	
		カ) 特別支出計	0.67	1.26
C) 特別収支差額			1.45	3.30
D) [予備費]			1.00	1.00
基本金組入前当年度収支差額 (A + B + C - D)			5.30	7.07
基本金組入額			△49.18	△72.98
当年度収支差額			△43.88	△65.91
前年度繰越収支差額			△1,009.24	△918.04
翌年度繰越収支差額			△1,053.12	△983.95

事業活動収入計 (ア+ウ+オ)	585.00	562.26
事業活動支出計 (イ+エ+カ+予備費)	579.69	555.19
事業活動収支差額 (A + B + C - D)	5.30	7.07

※百万円未満を切り捨て、合計においては差異を生じる場合がある。

予算・決算の詳細は、大学HP「経営・財務情報」に掲載しています。

人事情報

2023年度 杏林学園役員

役 職	氏 名	現 職
理事長	松田 剛明	学園長・大学教授
理 事	松田 博青	大学名誉教授
理 事	渡邊 卓	大学長
理 事	平形 明人	大学医学部長
理 事	岡島 康友	大学保健学部長
理 事	北島 勉	大学総合政策学部長
理 事	坂本ロビン	大学外国語学部長
理 事	近藤 晴彦	大学教授(付属病院長)
理 事	柴原 純二	大学教授(医学部教務部長)
理 事	田口 晴彦	大学教授(保健学部教務部長)
理 事	進邦 徹夫	大学教授(総合政策学部教務部長)
理 事	岩本 和良	大学教授(外国語学部教務部長)
理 事	甲能 直幸	立正佼成会附属佼成病院総院長
理 事	鈴木典比古	広島県公立大学法人理事長
理 事	今村 知明	公立大学法人奈良県立医科大学教授

役 職	氏 名	現 職
監 事	則定 衛	弁護士・元東京高等検察庁検事長・元法務事務次官
監 事	石井 道遠	元国税庁長官・元(株)東日本銀行特別顧問

2023年度 就任教授

学 部	所属教室/学科	氏 名	職 位
医 学 部	耳鼻咽喉科学	横井 秀格	臨床教授
保 健 学 部	看護学科看護学専攻	勝又 里織	教 授
保 健 学 部	看護学科看護学専攻	岩崎 孝子	教 授
保 健 学 部	診療放射線技術学科	俵 紀行	教 授
保 健 学 部	リハビリテーション学科理学療法専攻	木村 雅彦	教 授
保 健 学 部	リハビリテーション学科言語聴覚療法専攻	池田 一磨	教 授
総合政策学部	総合政策学科	半田 英俊	教 授

(4月現在)

2023年度 名誉教授

学 部	氏 名
医 学 部	塩川 芳昭
保 健 学 部	大瀧 純一
総合政策学部	松田 和晃

(4月現在)

2022年度 定年退職教授

学 部	所属教室/学科	氏 名
医 学 部	高齢医学	大荷 満生
医 学 部	脳神経外科学	塩川 芳昭
医 学 部	心臓血管外科学	布川 雅雄
保 健 学 部	健康福祉学科	大嶺 智子
保 健 学 部	看護学科看護学専攻	松岡 恵
保 健 学 部	診療放射線技術学科	久原 重英
外国語学部	中国語学科	荒川 みどり

2023年度 大学役職者

役 職	氏 名
学長	渡邊 卓
学部長(医学部)	平形 明人
学部長(保健学部)	岡島 康友
学部長(総合政策学部)	北島 勉
学部長(外国語学部)	坂本ロビン
医学研究科長	平形 明人
保健学研究科長	岡島 康友
国際協力研究科長	坂本ロビン
医学部付属病院長	近藤 晴彦
付属図書館長	大木 紫
医学分館長	大木 紫
井の頭分館長	亀崎 路子
データサイエンス教育研究センター長	坪下 幸寛
キャリアサポートセンター長	真野 靖久
国際交流センター長	宮首 弘子
入学センター長	岡田 洋二
学生支援センター長	志村 良浩
研究推進センター長	櫻井 裕之
保健センター長	徳永 健吾
総合情報センター長	大森 拓哉
地域連携センター長	石井 博之
高大接続推進室長	稲垣 大輔
教務部長(医学部)	柴原 純二
教務部長(保健学部)	田口 晴彦
教務部長(総合政策学部)	進邦 徹夫
教務部長(外国語学部)	岩本 和良
学生部長(医学部)	渡邊衡一郎
学生部長(保健学部)	望月 秀樹
学生部長(総合政策学部)	木暮健太郎
学生部長(外国語学部)	志村 良浩
医学研究科 教務担当	大西 宏明
保健学研究科 教務担当	八並 光信
国際協力研究科 教務担当	倉林 秀男

学生情報

在学生数 (2023年4月現在)

学部	学生数
医学部	728
保健学部	3,000
総合政策学部	1,015
外国語学部	1,076
学部合計	5,819
大学院	計
医学研究科	59
保健学研究科	92
国際協力研究科	42
大学院合計	193
総計	6,012

2022年度 学位授与者数

学部	人数	累計学位授与数
医学部	112	4,654
保健学部	677	11,047
総合政策学部	249	10,953
外国語学部	241	9,674
学部合計	1,279	36,328
大学院	人数	累計学位授与数
医学研究科	17	1,144
保健学研究科	13	439
国際協力研究科	13	1,134
大学院合計	43	2,717
総計	1,322	43,033*

*看護専門学校生含む

2022年度3月卒業 学園長・学長賞 授与者

医学部	石井 久絵	澤田 月杜	家口 紘子
保健学部	外園 歩結	渡部 杏梨	関 美春
総合政策学部	高見澤萌香	倉田 莉奈	伊藤 和之
外国語学部	平川 順也	森川安美夏	都築 綾

2022年度 就職率 (2023年5月現在)

学部	学科	就職率
総合政策学部	総合政策学科	98.5%
	企業経営学科	100%
外国語学部	英語学科	98.0%
	中国語学科	93.8%
	観光交流文化学科	100%

2023年度 入学者数

学部	学生数
医学部	118
保健学部	834
総合政策学部	255*
外国語学部	267*
学部合計	1,474
大学院	学生数
医学研究科	2
保健学研究科	47
国際協力研究科	7
大学院合計	56
総計	1,530

*編・転入生含む

2022年度 国家試験結果

学部	資格	国家試験合格率(新卒)	全国平均
医学部	医師	96.4%	94.9%
保健学部	臨床検査技師	90.7%	89.5%
保健学部	社会福祉士	87.5%	44.2%*
保健学部	看護師	98.6%	95.5%
保健学部	保健師	100%	96.8%
保健学部	助産師	100%	95.9%
保健学部	臨床工学技士	100%	85.4%*
保健学部	救急救命士	98.0%	93.8%*
保健学部	理学療法士	96.4%	94.9%
保健学部	作業療法士	96.0%	91.3%
保健学部	診療放射線技師	100%	94.1%

*既卒含めた全国平均

2023年度入試 志願者数

学部	学科	専攻	志願者数
医学部	医学科		3,876
	臨床検査技術学科		684
		健康福祉学科	329
	看護学科	看護学専攻	1,867
		看護養護教育学専攻	543
	臨床工学科		203
	救急救命学科		235
	リハビリテーション学科	理学療法学専攻	755
		作業療法学専攻	198
		言語聴覚療法学専攻	79
診療放射線技術学科		834	
臨床心理学科		288	
小計		6,015	
総合政策学部	総合政策学科		677
	企業経営学科		515
	小計		1,192
外国語学部	英語学科		468
	中国語学科		152
	観光交流文化学科		321
	小計		941
総計		12,024	

大学評価(認証評価)の結果

すべての大学は、学校教育法第109条第2項に基づき、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備等の総合的な状況に関し、文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関の実施する認証評価を政令で定める期間ごとに受けることが義務付けられています。

杏林大学では、2022年度に公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を受審し、その結果、同協会が定める大学基準に適合していると認定されました。

また、提言として、是正勧告0件、改善課題2件(学生の受け入れ、財務)、長所3件(教員・教員組織、学生支援、社会連携・社会貢献)が付けられました。認定期間は、2023年4月1日から2030年3月31日までです。今回の評価結果を踏まえて、教育研究活動の一層の充実と改善に取り組んでまいります。



医学部講義棟Aに学園の歴史展示を設置

三鷹キャンパスの医学部講義棟Aの3階に、今年3月、学園の歴史を紹介する展示パネルが設置されました。「杏林」の由来や創立者松田進勇の医学部開学宣言、建学の精神とともに、1953年の創立前史から現在に至るまでの流れを「草創期」「整備期」「拡大期」「成長期」「飛躍期・そして未来へ」の5期に分けて年表と写真で紹介しています。また、QRコードから校歌を聞くことができます。

展示パネルは、杏の林をイメージして、木目の美しいナラ材196本が使われ、楕円形の独立した3枚の化粧板と、重なり合う5連の化粧板で構成されています。3枚の化粧板のベースには杏の実と葉の美しい画像が描かれ、5枚の化粧板の上部には杏の実が熟して行くように緑から橙へと移ろう色彩が施されています。杏の持つ優しさや温かみを感じながら、本学の発展の歴史をたどることができます。



あたたかいご支援に感謝

学生支援のための教育研究募金、医療従事者が治療に専念できる環境を整備するための付属病院へのご寄付等に多くの皆様からご支援を賜りました。杏林大学を支えてくださる皆様のご支援とご理解に感謝申し上げます。寄付状況は記載のとおりです。

■2022年度寄付状況

4月1日から3月31日までの種類別件数と金額等を報告します。

寄付の種類	累計件数	累計金額
教育研究募金	37件	61,840,000円
医学部付属病院へのご寄付	46件	12,049,250円
奨学寄付金	271件	271,837,950円
杏林大学リサイクル募金	30件	44,962円

※奨学寄付金の中には、研究寄付講座寄付金(3件)を含む
皆様からのご寄付は、それぞれの使途・目的に沿って、有効に活用させていただいております。

●お問い合わせ先

杏林学園募金事務局(経理課内)

〒181-8611 東京都三鷹市新川16-20-2

TEL:0120-50-1665(フリーダイヤル)

E-mail:bokin@ks.kyorin-u.ac.jp

杏林学園募金サイト





あんず Anzu 2023 | 春 |

学校法人 杏林学園

2023年5月26日発行

発行 学校法人 杏林学園

企画・編集 広報室

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2

TEL.0422-44-0611